

ウムチョ ムウイーザ通信 No. 2

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

発行 2002.12.1

〔ごあいさつ〕



ルワンダの教育を考える会

代表 高橋啓子

恒例になっている秋のイベント、今年の葉祥明チャリティ講演会は、十月五日に無事終了し胸をなでおろしたところです。いつも変わらず寸暇を割いて東奔西走していただいているスタッフの方々ははじめ、会員皆様方の熱意と努力の賜物であると深く感謝申し上げます。

さて、次に報告を申し上げます。

報告① 開校後二回目の九月入学期を迎え、結果として新入生七一名を迎え全員で一六九名になり、教師五名を含む全員九名で教育にあたっています。そのうち授業料全額を払える人は三分の一程度のことです。教室は既に完成していますので心配はありませんが、来年度の方はこれから建設します。

報告② 今年には思いもがけずルワンダ訪問が四回行われました。

I ルワンダ隣国コンゴのニラコンゴ火山噴火の被災民救援活動のためルイズさんがアムダの派遣団として訪問

II 会員津田浩子さんによるルワンダ訪問

III アポリネールさんの母国訪問
IV 会員齋藤照子さんとルイズさんによるルワンダ現地視察

報告③

ウムチョムウイーザ学園の年費確保（年額約一五〇万円）

継続できない教育は教育とはいえない。しかしその継続には非常な力が必要です。三分の一程度のみの授業料収入が学校の実状です。それを、毎月定期的に支えられるだけの力は今の本会にはありません。つまづきながらも何とかしなければと思案の最中になんと本年入会された齋藤照子さん（八月にルワンダ訪問）より毎月定期的な寄付の申し出があり誠に感謝感激の極み、そのご厚意を有難くお受けした次第です。本会では会員の増強で会に力をつけていくつもりです。皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、
ルワンダでの学校の名称は
（良い文化学園）

*Complexe Scolaire
Umuco Mwiza*

設立団体は略称で

ADESOC

責任者は

Sinamenye Charles Mafigi
（ルイズさんのお兄さんです。）

〔ルイズのあいさつ〕

ルワンダの教育を考える会が発足して2年間になりました。NPO法人になって1年になります。皆様には、その間様々な協力をしてくださいましてありがとうございました。

ルワンダの学校建設は、着々と進んでいます。4つの教室が完成し、169名の子どもを受け入れて、2年目の新学期を迎えることが出来ました。

去年入学してきた子ども達は、教室で学ぶことで夢を持ち始めています。学校ができるずっと前に、「大きくなったら何になりたい?」とルワンダの子供たちに聞いたことがありました。でもその時は何の答えも持っていない子ども達でしたが、今では、「学校の先生になりたい」とか「看護婦さんになりたい」とか、「サッカー選手になりたい」とか、具体的な夢を持てるようになりました。これは皆様が蒔いてくださった「たね」のおかげです。この「たね」を大切に育てていきたいです。学校をつくることのむずかしさは皆様もよく知っていらっしゃると思います。それでも前向きに協力してくださっている皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

どうぞ皆様、緩やかに、出来る限りのそして無理のないような活動を続けていきましょう。これからもどうぞよろしくお願いします。

私のライフワーク

〔ルワンダ訪問記〕

今年、7月29日から8月12日まで、本会副理事長カンベンガ・マリールイズと本会会員齋藤照子さん、齋藤利幸さんの3人がルワンダを訪問しました。

今回は、齋藤照子さんにその時の様子をレポートしていただきました。

会員 齋藤照子

私は、今年の8月、ルイズさんと一緒にはじめてルワンダの首都「キガリ」を訪問しました。この訪問にあたって、一番心がけたことは、滞在中は日本の文化や習慣を一切忘れて白紙の心で接しようとしたことです。

飛行場で迎えてくださったルイズさんの親族の方々と次々と挨拶しているうちに、何の隔たりもなくスーッと溶け込んで行く自分を感じ、「ああ、よかった。楽しい滞在になりそう」と思いました。

そのとおり!。とってもかわいい学校の子ども達に会えたことです。

フランス語と英語で寸劇を見せてくれた子ども達の楽しそうな姿。

私が教えた「チューリップの歌」をすぐに覚えて、大きな声で元気いっぱい歌ってくれた得意そうな顔。

教室の外では、保護者達がルイズを囲んで真剣に話し合っている輪。

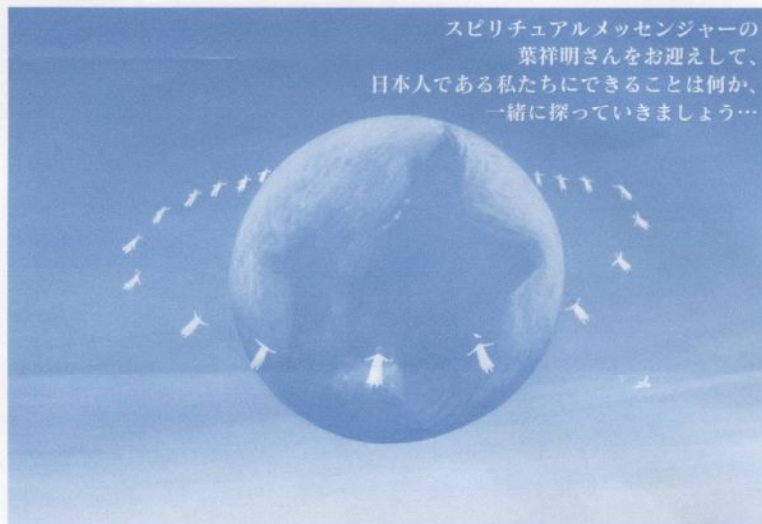
校庭には、これから建設する教室やトイレに使用するレンガの山。広々とした校庭のあちこちにたくさんの実をつけてのびのびと立っている大きなアボガドの木。

「ああ、ここに、いつの日か大学まで建設されるのだなあ」と思い、そこで学ぶ子ども達の姿を想像しているうちに、私の心はワクワクしてきて、このプロジェクトの一員として参加している誇りと、素晴らしいライフワークを持って歩める喜びを、しみじみ感じる事ができました。

私は今年64歳、今日までたくさんの方達からいろいろな恩をいただいて生きてまいりました。これからは、その恩をどなたかにお返しする時です。私の出来ることを、力まず、気負わず、楽しく明るくやり続けてゆきたいと思っております。

〔葉祥明チャリティ講演会報告〕

会員 穴戸なつ美



スピリチュアルメッセンジャーの
葉祥明さんをお迎えして、
日本人である私たちにできることは何か、
一緒に探っていきましょう…

2002年10月5日の土曜日、桜の
聖母短期大学マリアンホールにおいて、
葉祥明チャリティ講演会が開かれました。

テーマは「ルワンダの子供たちに夢を
・・・！」ご自身が書かれた絵や本を
使い、戦争が終わっても地雷に悩まされ
る人々の話や学校に行きたくても生活の
ためになかなかむずかしい子どもの話な
どを始めとし、命とは、人生とはという
ことを自然に考えさせられる、優しい口
調で講演は進みました。

また、質問コーナーではご自身の夢で
ある「ふるさと美術館」の話なども飛び
出しました。日本各地の自然や景色の美
しさを生かした場所を手に入れ（山林を
地主の方に寄付して下さい。という呼び
かけもありました。）ナショナルトラスト
運動の日本版のようなものを展開し、ご
当地美術館を作りたいということでした。

もし、私が、たくさんの土地を持ってい
たら「ぜひ、家のそばに作して下さい。」
と言うのになあと思いながら聞いていま
した。

最後の朗読では、「あなたは犠牲を払
っていますか？犠牲とは自分のことを

さておいてとても無理なことを他のため
に自発的にやることです。だから尊いの
です。」という言葉が心にしみこみまし
た。

その後のサイン会もたくさんの方が
参加され 好評のうちに終わりました。

来年のイベントとして
こんな人のコンサートがいいのでは？
とか こんな人の講演がいいのでは？
という皆さんのアイディアを
ぜひ、事務局へお寄せください。

～お知らせ～

おかげさまで、盛況のうちに終了した
講演会でした。

収入 820,447円

(チケット代・カード等売上げ・寄付等)

支出 453,708円

(会場費・チラシ印刷代・講演料等)

差引 366,739円

10月31日に30万円をルワンダに
送金することが出来ました。

さまざまな、ご協力ありがとうございました。

ルワンダフル

クリスマス☆キャンペーン



本会では、この冬、皆さんにサンタさんの気持ちになっていただいて、ルワンダの子ども達のために特別ご寄付を寄せていただきたいと考えています。

ルワンダでは、まだまだ、たくさんの支援を必要としています。

本年度の会費と共に下記口座までお振込ください。

また、ルワンダフルクリスマス募金箱を作りました。店頭等人の出入りの多い場所に置かせてくださるボランティアも募集中です。



会費納入について

—会費は下記へお願いします—

正会員 5,000円 賛助会員 10,000円

郵便振込口座：02290-0-97126

NPO 法人 ルワンダの教育を考える会



編集後記

阿武隈川に、たくさんの白鳥が飛来して、美しい姿を見せてくれています。国境を越えて、地球上の生きとしけるものが平和に暮らせる日が、一日も早く来ますようにと、祈りたくなるようなニュースが多いこの頃です。今回、待望のルワンダの教育を考える会のニュースを発行することができました。今後もルイズのバイタリティあふれる活動を紙面を通して定期的にお知らせしてゆきたいと思います。

ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋啓子

副理事長 カンベンガ・マリールイズ

〒960-0466

福島県伊達郡伊達町字根岸 5-11

TEL/FAX 024-583-5345

e-mail : umuco@smail.plala.or.jp

